

株主のみなさまへ

TOWA REPORT



第55期 第2四半期事業のご報告

平成22年4月1日～平成22年9月30日

CONTENTS

ごあいさつ	1
半期の取り組み	2
業績の概要	3
中期経営計画と推進状況	5
連結財務諸表(要約)	7
ニュース&トピックス	9
会社の概況と株式の状況	10



東和薬品株式会社



代表取締役社長
吉田 逸郎

About TOWA

当社は来年、
創業60周年を迎えます。

山形工場の建設は順調に進んでおり、本建設が完了すれば、長年にわたる生産倍増計画の主な設備投資は一段落します。一方で、15年後に医療費総額がピークを迎えると予測されており、それに伴って本格的なジェネリック医薬品の需要に対応できるように社内の全ての部門の総仕上げを行っているところです。

役員及び従業員が丸となってさらなる成長を目指します。

ごあいさつ

当期の業績は順調に進捗。今後は安定供給体制の
拡充を図り、生産数量の拡大も目指してまいります。

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社の第55期第2四半期の事業のご報告(平成22年4月1日から平成22年9月30日)をお手元にお届けいたします。

国は、「平成24年度までに、後発医薬品の数量シェアを30%以上にする」という政府目標に向けて環境整備を行っておりますが、4月に行われた「後発医薬品調剤体制加算」の見直しには、これまでにない効果が見られました。すなわち、後発医薬品の調剤割合の増加を図る保険薬局が多く、4月以降、多くの当社製品の売上が増加しました。傾向として、発売してからの期間が長い製品の売上上昇が見られ、工場の生産数量も大幅に上昇しております。また、納入先別売上としては、これまで診療所が保険薬局を上回っていましたが、4月以降においてはこれが逆転し、保険薬局が上回りました。

当社といたしましては、特に保険薬局市場での安定供給体制の拡充を図るため、営業所の新設や、配送要員の増員などに取り組んでいるところであります。

また、建設中の山形工場も順調に工事が進捗しております。平成24年3月の稼働

により、国内でも有数の生産体制が確立します。この投資は、当社の成長の礎と確信しておりますので、株主の皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

そのような中、薬局市場の拡大、大病院との直接取引による売上増、当社独自の RACTAB[®]技術を駆使したアムロジピンOD錠「トーワ」、ランソプラゾールOD錠「トーワ」の成長などにより、当期の業績は、当初計画を上回り順調に推移致しました。

利益配分にあたっては、当期業績が順調に進捗していることを踏まえ、株主の皆様への支援にお応えするため、中間期末の配当金は期初計画通り1株当たり7.50円増配し、30.00円と致しました。

内部留保金につきましては、中長期的視点からの経営体質の強化、企業価値の向上を図るために、研究開発力の充実、生産能力向上・効率化のための設備投資、特に山形工場の建設、営業体制の拡充・強化などに充てさせていただきたいと存じます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年12月

東和薬品この半期の取り組み



東和グループ企業
行動憲章を制定(4月1日)

2010年 優秀ジェネリック 医薬品奨励賞に選定

平成21年11月に発売した
“レボフロキサシン内用液
25mg/mL「トーフ」”が、NPO
法人ジェネリック医薬品協
議会より表彰されました。

「これからの時代に求める ジェネリック医薬品とは」

読売新聞に広告掲載(5月
16日)



山形工場について記者 発表会を開催(8月26日)

CO₂排出量の16%削減を目
指した照明のオールLED化
をはじめ、様々な先進的取
組みを採用しています。



新規営業所を開設

滋賀・京都・福知山・高知(4月
1日)、府中(4月20日)、鳥取
(5月1日)、盛岡・仙台(9月
1日)の、合計23営業所体制
となりました。

日経健康セミナー21 に協賛

「もっと知りたい、糖尿病対策。
そして、ジェネリック医薬品」
に協賛しました。

4月

5月

6月

7月

8月

9月

平成22年度 厚生労働科学研究に採択

「経口固形剤の溶出挙動
に基づく血中薬物濃度推移
の予測に関する研究」当社
研究員の申請課題が採択さ
れました。



薬価基準追補品収載、 13成分15品目を新発売

前立腺肥大症の排尿障害改
善剤タムスロンOD錠0.1mg
/0.2mg、前立腺癌治療剤
ピカルタミド錠80mg「トーフ」
などを新発売。

2010年度 日本薬剤学会 旭化成創剤開発技術賞に選定

新規口腔内崩壊錠(RACTAB®
技術)が、社団法人日本薬剤学会
により選定されました。

 RACTAB®

日本ジェネリック医薬品 学会第4回学術大会

6月13日埼玉で開催。ラン
チョンセミナーを共催、シンポ
ジウムにて発表しました。



次世代認定マーク 「くるみん」取得



8月27日付認定。「働きやす
い」「働きがいのある」職場
環境づくりを目指し、様々な
活動に取り組んでいます。

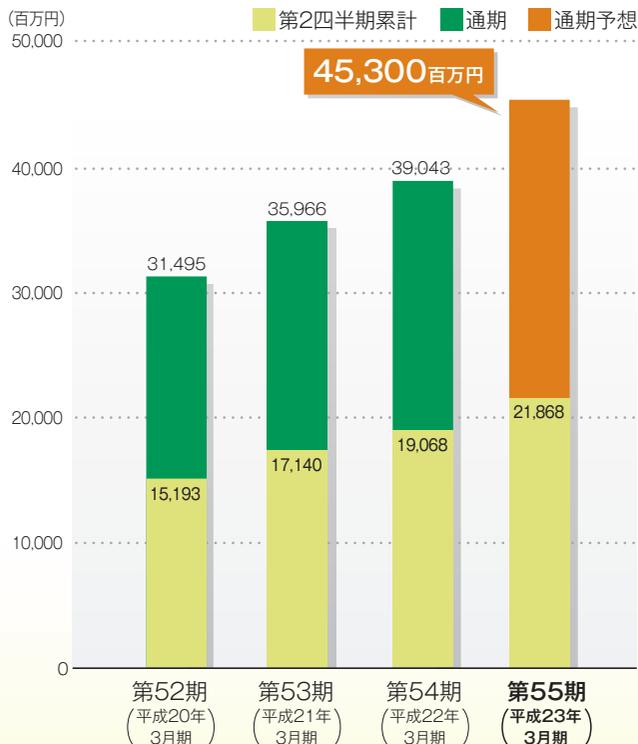
第27回 日本TDM学会・学術大会

6月26日北海道、スイーツ
セミナーを共催いたしました。

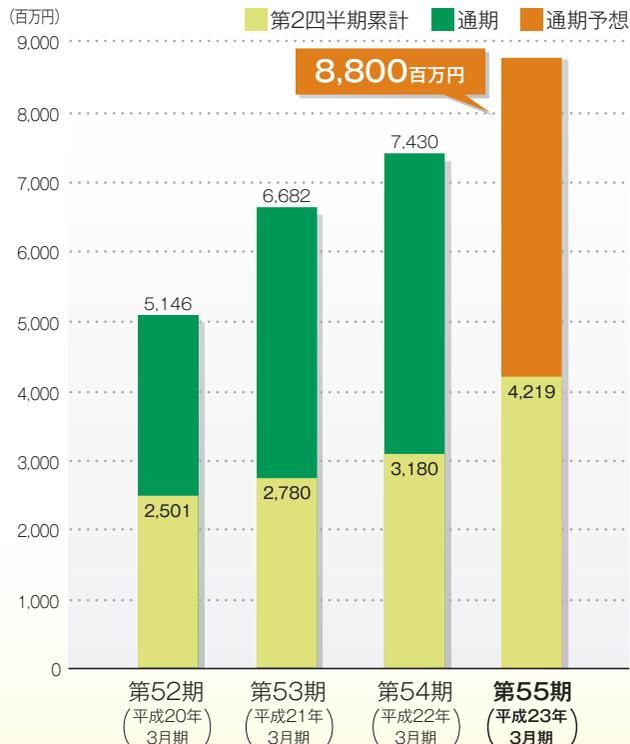
業績の概要

業績ハイライト(連結)

売上高



経常利益



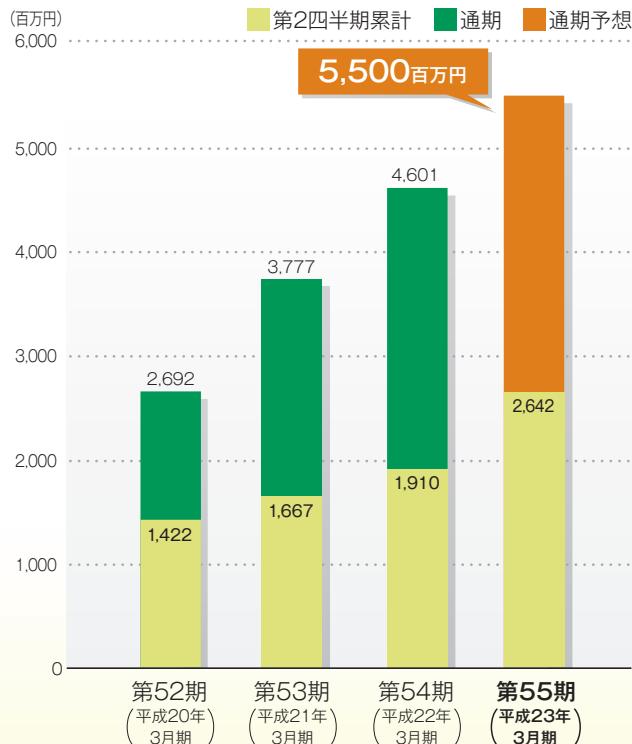
当第2四半期(連結)の概況

医療用医薬品業界では、平成22年4月の診療報酬改定で、薬価改定が行われるとともに、新薬創出・適応外薬解消等促進加算の導入や、薬局の調剤基本料における後発医薬品調剤体制加算の見直しなどが実施されました。この影響により、4月以降、後発医薬品の調剤割合の増加を図る保険薬局が多く見られ、保険薬局向けの売上が急増しました。ただ、この増加傾向は一時的なものであり、6月以降の

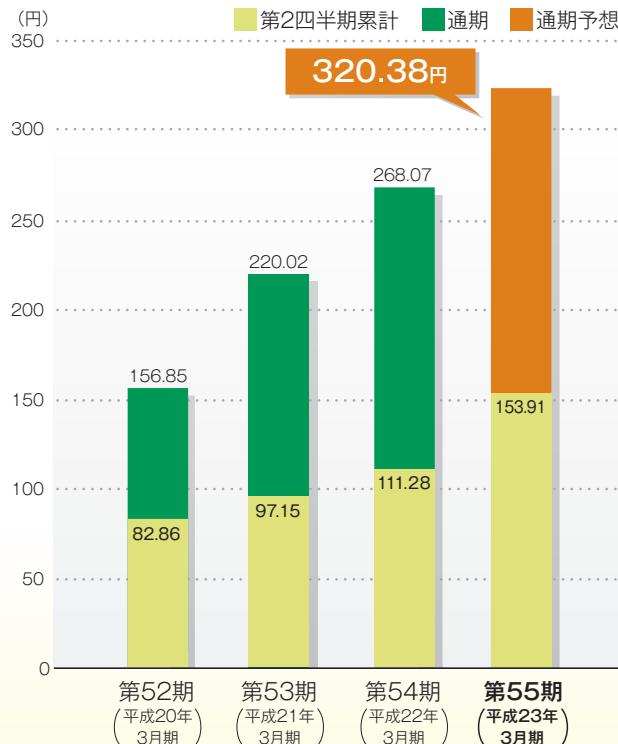
保険薬局向けの売上は高い水準で横ばい傾向が続いています。当社といたしましては、特に保険薬局市場での安定供給体制の拡充を図るため、営業所の新設や、配送要員の増員などに取り組むとともに、病院市場、診療所市場の強化も図っているところであります。

一方、当社独自のRACTAB[®]技術を用いたアムロジピンOD錠「トーワ」やランソプラゾールOD錠「トーワ」について

四半期純利益



1株当たり四半期純利益



は、医療機関や保険薬局における当社技術の評価が定着しつつあり、売上は順調に推移しました。

この結果、当第2四半期の当社グループの売上高は、21,868百万円(前年同期比14.7%増)、営業利益は4,445百万円(前年同期比18.6%増)、経常利益は4,219百万円(前年同期比32.7%増)、四半期純利益は、2,642百万円(前年同期比38.3%増)となりました。

通期の見通し

当第2四半期の業績は、薬局市場の拡大の影響もあり、売上、利益とも計画を上回って進捗しております。下期につきましても、同様の状況が続くと見込んでおり、平成22年5月14日に公表しました平成23年3月期の連結業績予想(通期)を修正いたしました。

中期経営計画と推進状況

当社中期経営計画(平成20年～平成22年)

当社グループがめざすべき企業像

信頼

ジェネリック医薬品(GE)トップメーカー

売上高平成24年度500億円

患者さんに、医療機関で働く方に、社会に、そしてこの会社で働くすべての人に信頼される会社であり続ける。

日本市場を基盤としたGEメーカーとして、信頼性及び売上規模でトップレベルの実力を有し、医療の未来に貢献する。

その結果として、売上規模で平成24年度に500億円、将来的には1,000億円をめざす。

信頼性の確立

取締役 信頼性保証本部長
野口 豪

Q 提供情報の管理強化のため
設立した「医薬情報部」の成果は？

医薬情報部は発足以来、当社の信頼性向上を目指して活動してきました。関係部署との活発な意見交換を通じ、当社が提供する情報の量と質は一段と向上しました。具体的な成果としては、新製品の添付文書などの情報を発売前に公開、患者さん向資料の充実(QRコード導入など)、外部提供資料審査システム確立などが挙げられます。

Q 「製品信頼性向上支援プロジェクト」
の推進状況と成果は？

「自主基準によるデータの取り揃えWG」では一定の温湿度下での製品の安定性を追求していますが、サンプルの在庫は順調で、順次、試験を進めています。2つ目のテーマである「製品改良・一変WG」では、3工場合計105品目の改良に取り組んできました。既に68品目が終了し、年度末には更に33品目が完了する見込みです。



保険薬局・基幹病院 の新規取引拡大

取締役 営業本部長
藤本 正義

Q 保険薬局、基幹病院市場の
拡大に向けた取り組みの成果は？

保険薬局市場では行政の後押しもあり、直近の半年で2600軒を超える新規取引ができました。全市場の80%の薬局とお取引させていただくという目標は未達成ながら、全体売上の中で診療所市場を上回る売上を確保し、順調に推移しています。基幹病院では直販体制での取引拡大が順調に進み、国立病院機構、労災病院などを中心に今後の実績拡大が期待できます。

Q 「代理店・営業所連携システム」
の活用状況は？

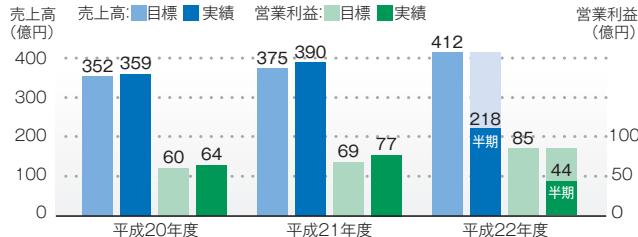
昨年10月に始動し、軌道に乗るまでは苦労をしましたが、今では営業所、代理店の実績をスピーディーに把握・分析し、それを基に販売戦略を練って会議などを通じて営業活動に結びつける流れができました。今後は、さらに情報の有効活用を検討し、代理店および営業所による強固な直販体制の構築に向けての活用を進めてまいります。



目標経営指標

当社グループは、企業価値の増大を図っていくために、重要な経営目標として、当面は売上高、営業利益を重視したいと考えております。平成21年度は売上高390億円、営業利益77億円でしたが、中期経営計画において、平成22年度の業績目標として、売上高412億円、営業利益85億円を掲げております。

中期経営計画数値目標・実績(連結)



製剤技術の向上

常務取締役 研究開発本部長
大澤 孝

Q 「付加価値の高い製品の開発」への取り組み状況と成果は？

製品の企画段階から研究開発、営業、生産、信頼性保証などの本部横断的な仕組みが機能し、付加価値の高い製品開発の素地ができました。当社の基盤技術である RACTAB®は、優れた実用製剤の技術として6月に日本薬剤学会にて「旭化成創剤開発技術賞」を受賞しました。この技術をさらに進化させ、新たなOD錠(口腔内崩壊錠)の開発を行っています。

Q 信頼性向上に向けて行われた、開発プロセス改善の成果は？

開発プロセス全体を見直し、新製品の企画・開発・上市を確実に進められるように本部横断的な各種会議体を設置しました。その結果、企画から上市後までの各段階において、情報の共有化ならびに透明性の確保が進み、リソースの有効な活用が可能になりました。高品質な製品を供給する体制が確立されました。



製造技術の向上

常務取締役
生産本部長兼新工場建設室長
播磨 武

Q 安定供給を確保する生産体制づくりの、推進状況は？

山形工場の建設は固形製剤棟と倉庫棟とユーティリティ棟の外壁も設置され全貌が現れてきました。また主力製品は2工場生産できるバックアップ体制を構築する計画です。大阪工場と岡山工場を強化し、山形工場も含めて各工場25億錠の生産能力を目指します。平成24年以降、新発売時の一般錠剤は全て大阪工場で製造する予定です。

Q コストダウンへの取り組みについての成果は？

基本生産体制を1シフトから2シフトにして、設備投資額を大幅に抑えました。またPTP包装の共通ポケットサイズ化を推し進め、部品コストの大幅削減。PTP包装シートを変更することで、品質を保ちながらコスト削減を実施しています。さらに各工場スケールアップを進め、労務費の削減を図っています。



連結財務諸表(要約)

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前期 (平成22年 3月31日現在)	当第2四半期 (平成22年 9月30日現在)	増減
(資産の部)			
流動資産			
現金及び預金	10,941	12,348	1,407
受取手形及び売掛金	14,726	14,887	160
有価証券	—	73	73
① たな卸資産	10,841	12,282	1,441
その他	1,518	1,637	119
貸倒引当金	△343	△354	△11
流動資産合計	37,684	40,874	3,190
固定資産			
建物及び構築物	7,277	7,111	△166
土地	6,676	6,771	95
② 建設仮勘定	3,261	4,928	1,667
その他	2,487	2,518	30
有形固定資産合計	19,702	21,330	1,627
無形固定資産合計	369	437	68
投資有価証券	2,014	1,859	△155
その他	797	866	68
貸倒引当金	△63	△51	12
投資その他の資産合計	2,748	2,674	△73
固定資産合計	22,820	24,442	1,621
資産合計	60,504	65,316	4,812

POINT 1

たな卸資産

製品在庫及び購入原材料が増加しました。

POINT 2

建設仮勘定

山形工場の建設工事を開始したことにより増加しました。

(単位:百万円)

科目	前期 (平成22年 3月31日現在)	当第2四半期 (平成22年 9月30日現在)	増減
(負債の部)			
流動負債			
支払手形及び買掛金	5,557	5,803	245
未払法人税等	1,887	1,646	△241
引当金	71	36	△35
③ その他	6,043	3,966	△2,077
流動負債合計	13,560	11,452	△2,107
固定負債			
④ 長期借入金	4,000	9,000	5,000
引当金	236	212	△24
その他	762	694	△67
固定負債合計	4,998	9,906	4,908
負債合計	18,559	21,359	2,800
(純資産の部)			
株主資本			
資本金	4,717	4,717	—
資本剰余金	7,870	7,870	—
利益剰余金	29,343	31,427	2,084
自己株式	△10	△11	△0
株主資本合計	41,920	44,005	2,084
その他有価証券評価差額金	24	△47	△72
純資産合計	41,945	43,957	2,012
負債純資産合計	60,504	65,316	4,812

POINT 3

その他(流動負債)

山形工場建設工事の支払債務が減少しました。

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 (平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで)	当第2四半期 (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)	増減
⑤売上高	19,068	21,868	2,799
売上原価	9,290	10,312	1,021
売上総利益	9,778	11,556	1,777
販売費及び一般管理費	6,030	7,110	1,080
営業利益	3,748	4,445	697
営業外収益	104	101	△3
営業外費用	673	327	△346
経常利益	3,180	4,219	1,039
特別利益	1	26	25
特別損失	23	37	14
税金等調整前四半期純利益	3,158	4,208	1,050
法人税等	1,247	1,566	318
四半期純利益	1,910	2,642	731

POINT 4

長期借入金

山形工場の設備資金としての借入れが増加しました。

POINT 5

売上高／売上原価／売上総利益

後発医薬品調剤体制加算の見直しにより、売上高は前年同期に比べ、2,799百万円(+14.7%)の増加となりました。

また、工場稼働率が上がり、原価率が低下したことにより、売上原価は1,021百万円(+11.0%)増加し、売上総利益は1,777百万円(+18.2%)の増加となりました。

POINT 6

連結キャッシュ・フロー計算書

前年同期に比べ、税金等調整前四半期純利益が1,050百万円増加し、長期借入れによる収入が5,000百万円ありましたが、有形固定資産の取得による支出が5,008百万円等もあり、現金及び現金同等物は2,480百万円増加しました。

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 (平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで)	当第2四半期 (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)	増減
税金等調整前四半期純利益	3,158	4,208	1,050
減価償却費	832	866	33
引当金の増減額(△は減少)	342	△61	△403
売上債権の増減額(△は増加)	△141	△147	△6
たな卸資産の増減額(△は増加)	△147	△1,441	△1,293
仕入債務の増減額(△は減少)	△180	245	426
その他	778	199	△578
小計	4,642	3,869	△772
利息及び配当金の受取額	19	14	△5
利息の支払額	△15	△28	△12
法人税等の支払額	△1,577	△1,774	△196
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,068	2,081	△987
定期預金の預入による支出	△4,000	△5,000	△1,000
定期預金の払戻による収入	—	6,000	6,000
有形固定資産の取得による支出	△1,655	△5,008	△3,353
その他	51	△125	△176
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,603	△4,133	1,469
長期借入れによる収入	4,000	5,000	1,000
配当金の支払額	△388	△556	△168
その他	△0	96	96
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,610	4,539	928
現金及び現金同等物に係る換算差額	7	△6	△14
現金及び現金同等物の増減額	1,082	2,480	1,397
現金及び現金同等物の期首残高	3,425	5,941	2,516
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,508	8,422	3,913

TOWA'S NEWS&TOPICS

山形工場は、先進的な取り組みで、
「人・地域・環境と調和する工場」を目指します。



**地域に配慮した景観計画や、
CO₂の削減に取り組んでいます。**

敷地内には地域特性を考慮した雑木林エリアを、敷地外周には桜並木を設置するなど、地域の自然環境に融合した景観計画を立案。構内に流水池を設け、生態系にも配慮しています。工場内部では、従来の同規模工場に比べ、CO₂排出量を約16%削減するための取り組みを実施。照明のオールLED化、非作業時に省エネ運転を行う空調設備を採用。また、従来のシステムでは捨ててしまう排熱を有効活用する冷凍機の採用を予定しています。

**国際標準対応の基準・設備を
採用し、信頼される製品づくりを。**

国際標準に対応した医薬品製造・品質管理基準やガイドラインを積極的に取り入れています。また設備面では、「無菌アイソレータ」や「封じ込め製剤機器」などの最新技術を採用します。

災害時も安定供給を確保します。

災害に備えて、無菌製剤棟を免震構造化し、固形製剤棟も制震構造化。停電時の自家発電体制や断水時の井戸水活用も整備し、非常時でも生産が継続できる体制を構築します。

株主様アンケート 結果のご報告

「第54期事業のご報告」のアンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。貴重なご意見・ご感想を頂戴し、厚く御礼申し上げます。結果がまとまりましたので、その概要をご報告させていただきます。

**当社株式の保有理由は
「成長が期待できる」がトップ。**

「成長が期待できる」に次いで「国がジェネリックの使用を推進している」「業績がいい」と続きました。当社およびジェネリック医薬品業界の、成長性・将来性に関心を持っていただいていることがわかりました。

**当社に対するイメージは
「信頼できる」「品質が良さそう」が上位。**

信頼や品質に次いで、「誠実な」「経済的な」と続きました。当社が目指している方向と同じイメージを持っていただいていることを、非常にありがたく存じます。また「黒柳さんの印象」という意見も頂戴しています。

**自由意見では
「これからも期待しています」と
多くの激励をいただきました。**

「これからもチャレンジング・カンパニーであるように頑張ってください(60代男性)」「これからも安定した企業であることを期待します(50代女性)」など、数多くの激励のお言葉を頂戴しました。ありがとうございました。

会社の概況と株式の状況 (平成22年9月30日現在)

会社概要

社名	東和薬品株式会社
本社	〒571-8580 大阪府門真市新橋町2-11 TEL (06) 6900-9100 (代表)
代表者	代表取締役社長 吉田 逸郎
創業	昭和26年6月
設立	昭和32年4月
上場取引所	東京証券取引所市場第一部 (証券コード:4553)
資本金	47億1,770万円
事業内容	医療用医薬品の製造・販売 自社製品 497品目
従業員数	1,334名
取引銀行	三菱東京UFJ銀行 門真支店 みずほ銀行 守口支店 三菱UFJ信託銀行 大阪支店
研究所	中央研究所 製剤研究所
工場	大阪工場 岡山工場 山形第一工場
子会社	ジェイドルフ製薬株式会社 (医薬品製造販売)

株式の状況

発行可能株式総数	49,000,000株
発行済株式総数	17,172,000株
1単元の株式数	100株
株主数	4,502名

大株主一覧(上位10名)

株主名	持株数	出資比率
(株) 吉田事務所	4,527千株	26.37%
(有) 吉田興産	2,000	11.65
吉田 逸郎	856	4.98
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口)	539	3.14
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント	505	2.94
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505044	481	2.80
東和薬品共栄会	368	2.14
ジェービー モルガン チェース バンク 385078	348	2.03
ピクテアンドシーヨーロッパエスエー	321	1.87
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	232	1.35

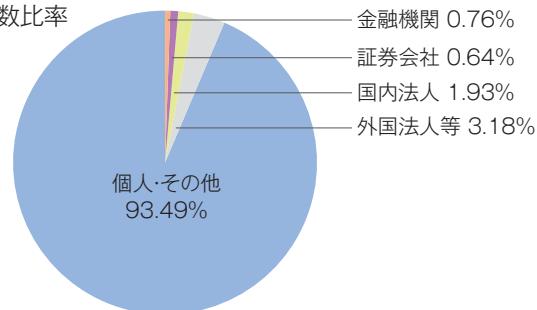
取締役及び監査役

代表取締役社長	吉田 逸郎	常勤監査役	皆木 武久
常務取締役	播磨 武	監査役	山田 啓三郎
常務取締役	大澤 孝	監査役	森野 實彦*
取締役	藤本 正義	監査役	辻 弘*
取締役	藪下 啓二		
取締役	西川 義明		
取締役	野口 豪		

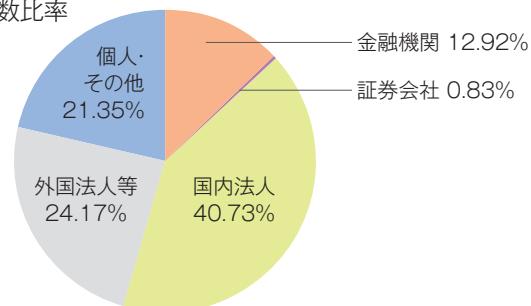
*は会社法 第2条 第16号に定める
社外監査役です。

株主分布状況

株主数比率



株式数比率



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月に開催
剰余金の配当の基準日	3月31日、9月30日
1単元の株式数	100株
公告掲載方法	電子公告によって行います。 http://www.towayakuhin.co.jp/ir/koukoku.html 但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人ならびに特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (お問い合わせ先)	〒541-8502 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話:0120-094-777(通話料無料)

◎住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

口座を開設されている証券会社等にお申出ください。なお、特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

◎未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し付けください。

◎見直しに関する注意事項

当報告書の記載内容のうち、歴史的事実でないものは将来に関する見直し及び計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績などは記載の見直しとは異なる場合がございます。

ホームページのご案内 <http://www.towayakuhin.co.jp>

当社のホームページでは、最新のトピックスをはじめ、企業情報や財務情報などの、株主・投資家の皆様に役立つ情報も積極的に開示しております。ぜひご覧ください。



くすりのあした研究所
黒柳徹子さんからのメッセージ
やテレビCM、ジェネリックに関するコンテンツを掲載しています。

株主・投資家の皆様へ

- 業績・財務ハイライト
- IRライブラリー ●電子公告
- IRカレンダー
- 株式事務情報

医療関係者の皆様へ

製品情報も充実しています。

New Topic

「第50回 消費者のためになった 広告コンクール」 新聞広告部門の銀賞を受賞しました

このコンクールは、社団法人日本アドバイザーズ協会主催の、消費者と有識者が消費者視点で評価する国内唯一の広告賞。当社の新聞広告は消費者の推薦でエントリーされ、新聞部門合計1661点の中からDブロック銀賞に選ばれました。



東和薬品株式会社

〒571-8580 大阪府門真市新橋町2番11号

TEL:06-6900-9100(代表)

<http://www.towayakuhin.co.jp>

皆様からのアクセスをお待ちしております。